

<経営学科>(認定課程:中学校1種(社会))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な日本国憲法、外国語コミュニケーションの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、他者の考えを理解しつつ自分の考えを正確に伝達する能力を向上させるための「アカデミックスキルズ」、ならびに自身と社会との関わり方を考えていくための「キャリアデザイン」を履修し、今後の学修目標を形成する契機とする。また、「経営学入門Ⅰ」「簿記入門Ⅰ」などの経営学の入門科目を履修することによって、学部の専門教育を理解することのできる基礎力を身に付ける。
	2 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、合理的な判断力を養うための「ストラテジック・シンキング」の履修を通して、課題を追究し解決することのできる力を向上させる。また、「経営学入門Ⅱ」「簿記入門Ⅱ」などの経営学の入門科目を履修することによって、1 Semesterに引き続いて学部の専門教育を十分に理解することのできる基礎力を身に付ける。
2年次	3 Semester	教職科目では、教育の基本的概念や理念、歴史を理解する。また、教職の意義、教員の資質能力等の基礎を身に付け教職の在り方を理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目を中心に履修して、経営学の基礎的知識を向上させる。また「コーチングコミュニケーション&リーダーシップ」などの科目を履修して、対人関係を円滑にするための能力を養う。そして「ゼミナールⅠ」などにおいて諸課題を理解して分析する力を高める。
	4 Semester	教職科目では、学校教育に関する基礎的な知識や課題、各発達段階に応じた指導及び教育課程、カリキュラム・マネジメントの意義などを理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目ならびに4 Semesterに配置された選択科目を履修して、経営学の専門的知識を向上させる。また「プロジェクト・マネジメント」などの科目を履修して、構想力や企画力などを身に付ける。そして「ゼミナールⅡ」などにおいて諸課題を理解して分析することのできる力を引き続き高めていく。
3年次	5 Semester	教職科目では、基礎的な教育の方法及び情報通信技術を活用した教育、道徳教育、特別支援教育の意義や指導法について理解する。 経営学部の固有科目では、経営学関連の展開科目として配置した科目群に加えて、中学校学習指導要領に示された社会科の目標である“社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎”を涵養させる力を養成するために、「企業と社会論」や「ダイバーシティ・マネジメント」などの科目を履修する。また「ゼミナールⅢ」において、問題分析力や解決力などをさらに向上させる。
	6 Semester	教職科目では、学校における教育相談の意義や課題、総合的な学習の時間、特別活動の意義や指導のあり方などを理解する。 経営学部の固有科目では、経営学関連の展開科目として配置した科目群に加えて、中学校の社会科教育を適切に進めていくために必要となる『歴史学』、『地理学』、『社会学』、『経済学』分野の関連科目を中心に履修する。また、この時点までに『グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ』『ビジネス・データ・サイエンス』群の主要な科目の履修をほぼ終えるようにする。併せて「ゼミナールⅣ」を履修して問題分析力や解決力などをよりいっそう向上させる。
4年次	7 Semester	教職科目では、生徒指導及び進路指導の意義や原理、指導方法などについて理解する。十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。
	8 Semester	教職科目では、4年間の学士課程プログラムと教職課程の学びとの関連を総括し、自身の教職適性も含めた省察を行い、教職への積極的な態度をもち、実践に向かうことができるようにする。
	通年	「教育実習Ⅰ」の履修を通して、教師としての職務についての理解を深める。中学生を教育することに対する自覚を深め、自律的に指導法を改善することができるような各種能力を向上させ、中学校1種(社会)を教えるにあたって必要となる関連知識を習得する。併せて「ゼミナールⅤ」「ゼミナールⅥ」での卒業論文作成を通して、学習したことがらを理解し、それらを整理し、適切なかたちにまとめることのできる力を磨く。

<経営学科> (認定課程:高等学校1種(地歴))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な日本国憲法、外国語コミュニケーションの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、他者の考えを理解しつつ自分の考えを正確に伝達する能力を向上させるための「アカデミックスキルズ」、ならびに自身と社会との関わり方を考えていくための「キャリアデザイン」を履修し、今後の学修目標を形成する契機とする。また、「経営学入門Ⅰ」「簿記入門Ⅰ」などの経営学の入門科目を履修することによって、学部の特設教育を理解することのできる基礎力を身に付ける。
	2 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、合理的な判断力を養うための「ストラテジック・シンキング」の履修を通して、課題を追究し解決することのできる力を向上させる。また、「経営学入門Ⅱ」「簿記入門Ⅱ」などの経営学の入門科目を履修することによって、1 Semesterに引き続いて学部の特設教育を十分に理解することのできる基礎力を身に付ける。
2年次	3 Semester	教職科目では、教育の基本的概念や理念、歴史を理解する。また、教職の意義、教員の資質能力等の基礎を身に付け教職の在り方を理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目を中心に履修して、経営学の基礎的知識を向上させる。また「コーチングコミュニケーション&リーダーシップ」などの科目を履修して、対人関係を円滑にするための能力を養う。そして「ゼミナールⅠ」などにおいて諸課題を理解して分析する力を高める。
	4 Semester	教職科目では、学校教育に関する基礎的な知識や課題、各発達段階に応じた指導及び教育課程、カリキュラム・マネジメントの意義などを理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目ならびに4 Semesterに配置された選択科目を履修して、経営学の専門的知識を向上させる。また「プロジェクト・マネジメント」などの科目を履修して、構想力や企画力などを身に付ける。そして「ゼミナールⅡ」などにおいて諸課題を理解して分析することのできる力を引き続き高めていく。
3年次	5 Semester	教職科目では、基礎的な教育の方法及び情報通信技術を活用した教育、特別支援教育の意義や指導法について理解する。 経営学部の固有科目では、国際比較や歴史を論じた展開科目群を中心に履修して、高等学校学習指導要領が求めるところの、“地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚”などを深めさせる力を養成する。また、「ゼミナールⅢ」において、問題分析力や解決力などをさらに向上させる。
	6 Semester	教職科目では、学校における教育相談の意義や課題、総合的な学習の時間、特別活動の意義や指導のあり方などを理解する。 経営学部の固有科目では、地誌関連科目や「ゼミナールⅣ」の履修を通して、高等学校学習指導要領が求めるところの、“諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習”“社会的事象を多面的・多角的に考察することや複数の立場や意見を踏まえて構想国家及び社会の形成者として必要な資質・能力”を育成することのできる力を育成する。
4年次	7 Semester	教職科目では、生徒指導及び進路指導の意義や原理、指導方法などについて理解する。十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。
	8 Semester	教職科目では、4年間の学士課程プログラムと教職課程の学びとの関連を総括し、自身の教職適性も含めた省察を行い、教職への積極的な態度をもち、実践に向かうことができるようにする。
	通年	「教育実習Ⅱ」の履修を通して、教師としての職務についての理解を深める。高校生を教育することに対する自覚を深め、自律的に指導法を改善することができるような各種能力を向上させ、高等学校1種(地歴)を教えるにあたって必要となる関連知識を習得する。併せて「ゼミナールⅤ」「ゼミナールⅥ」での卒業論文作成を通して、学習したことから理解し、それらを整理し、適切なかたちにまとめることのできる力を磨く。

<経営学科>(認定課程:高等学校1種(公民))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な日本国憲法、外国語コミュニケーションの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、他者の考えを理解しつつ自分の考えを正確に伝達する能力を向上させるための「アカデミックスキルズ」、ならびに自身と社会との関わり方を考えていくための「キャリアデザイン」を履修し、今後の学修目標を形成する契機とする。また、「経営学入門Ⅰ」「簿記入門Ⅰ」などの経営学の入門科目を履修することによって、学部の専門教育を理解することのできる基礎力を身に付ける。
	2 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、合理的な判断力を養うための「ストラテジック・シンキング」の履修を通して、課題を追究し解決することのできる力を向上させる。また、「経営学入門Ⅱ」「簿記入門Ⅱ」などの経営学の入門科目を履修することによって、1 Semesterに引き続いて学部の専門教育を十分に理解することのできる基礎力を身に付ける。
2年次	3 Semester	教職科目では、教育の基本的概念や理念、歴史を理解する。また、教職の意義、教員の資質能力等の基礎を身に付け教職の在り方を理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目を中心に履修して、経営学の基礎的知識を向上させる。また「コーチングコミュニケーション&リーダーシップ」などの科目を履修して、対人関係を円滑にするための能力を養う。そして「ゼミナールⅠ」などにおいて諸課題を理解して分析する力を高める。
	4 Semester	教職科目では、学校教育に関する基礎的な知識や課題、各発達段階に応じた指導及び教育課程、カリキュラム・マネジメントの意義などを理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目ならびに4 Semesterに配置された選択科目を履修して、経営学の専門的知識を向上させる。また「プロジェクト・マネジメント」などの科目を履修して、構想力や企画力などを身に付ける。そして「ゼミナールⅡ」などにおいて諸課題を理解して分析することのできる力を引き続き高めていく。
3年次	5 Semester	教職科目では、基礎的な教育の方法及び情報通信技術を活用した教育、特別支援教育の意義や指導法について理解する。 経営学部の固有科目では、展開科目群に加えて「ゼミナールⅢ」や法律学・政治学分野の諸科目の履修を通して、高等学校学習指導要領が求めるところの、“持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成、現代社会に生きる人間としての在り方生き方の自覚”を涵養させる力を育成する。
	6 Semester	教職科目では、学校における教育相談の意義や課題、総合的な学習の時間、特別活動の意義や指導のあり方などを理解する。 経営学部の固有科目では、展開科目群および「ゼミナールⅣ」の履修を通して、高等学校学習指導要領が求めるところの、“社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能”“社会的事象等の意味や意義・特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想する力や、考察したことや構想したことを説明する力、それらを基に議論する力”を向上させる能力を育成する。
4年次	7 Semester	教職科目では、生徒指導及び進路指導の意義や原理、指導方法などについて理解する。十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。
	8 Semester	教職科目では、4年間の学士課程プログラムと教職課程の学びとの関連を総括し、自身の教職適性も含めた省察を行い、教職への積極的な態度をもち、実践に向かうことができるようにする。
	通年	「教育実習Ⅱ」の履修を通して、教師としての職務についての理解を深める。高校生を教育することに対する自覚を深め、自律的に指導法を改善することができるような各種能力を向上させ、高等学校1種(公民)を教えるにあたって必要となる関連知識を習得する。併せて「ゼミナールⅤ」「ゼミナールⅥ」での卒業論文作成を通して、学習したことがらを理解し、それらを整理し、適切なかたちにまとめることのできる力を磨く。

<経営学科>(認定課程:高等学校1種(商業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な日本国憲法、外国語コミュニケーションの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、他者の考えを理解しつつ自分の考えを正確に伝達する能力を向上させるための「アカデミックスキルズ」、ならびに自身と社会との関わり方を考えていくための「キャリアデザイン」を履修し、今後の学修目標を形成する契機とする。また、「経営学入門Ⅰ」「簿記入門Ⅰ」などの経営学の入門科目を履修することによって、学部の専門教育を理解することのできる基礎力を身に付ける。
	2 Semester	教職共通科目では、一般教養として必要な体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの基礎知識を理解する。 経営学部の固有科目では、合理的な判断力を養うための「ストラテジック・シンキング」の履修を通して、課題を追究し解決することのできる力を向上させる。また、「経営学入門Ⅱ」「簿記入門Ⅱ」などの経営学の入門科目を履修することによって、1 Semesterに引き続いて学部の専門教育を十分に理解することのできる基礎力を身に付ける。
2年次	3 Semester	教職科目では、教育の基本的概念や理念、歴史を理解する。また、教職の意義、教員の資質能力等の基礎を身に付け教職の在り方を理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目を中心に履修して、経営学の基礎的知識を向上させる。また「コーチングコミュニケーション&リーダーシップ」などの科目を履修して、対人関係を円滑にするための能力を養う。そして「ゼミナールⅠ」などにおいて諸課題を理解して分析する力を高める。
	4 Semester	教職科目では、学校教育に関する基礎的な知識や課題、各発達段階に応じた指導及び教育課程、カリキュラム・マネジメントの意義などを理解する。 経営学部の固有科目では、『企業・ストラテジー』『組織・マネジメント』『会計・ファイナンス』の3分野の選択必修科目ならびに4 Semesterに配置された選択科目を履修して、経営学の専門的知識を向上させる。また「プロジェクト・マネジメント」などの科目を履修して、構想力や企画力などを身に付ける。そして「ゼミナールⅡ」などにおいて諸課題を理解して分析することのできる力を引き続き高める。
3年次	5 Semester	教職科目では、基礎的な教育の方法及び情報通信技術を活用した教育、特別支援教育の意義や指導法について理解する。 経営学部の固有科目では、経営学関連の展開科目として配置した科目群に加えて、「ゼミナールⅢ」の履修を通して、高等学校学習指導要領がビジネスを通して経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人に必要な資質・能力として挙げるところの、“商業の各分野について体系的・系統的に理解する力” “課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力” “自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度”を身に付けさせる指導力を養う。
	6 Semester	教職科目では、学校における教育相談の意義や課題、総合的な学習の時間、特別活動の意義や指導のあり方などを理解する。 経営学部の固有科目では、『マーケティング』関連科目や『ビジネス・データサイエンス』科目群、ならびに「ゼミナールⅣ」の履修を通して、直近の学習指導要領の改定によって求められているところの、“マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得”、“経済のグローバル化に関する学習”、“情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習”を進めていくことのできる能力を育成する。
4年次	7 Semester	教職科目では、生徒指導及び進路指導の意義や原理、指導方法などについて理解する。十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。
	8 Semester	教職科目では、4年間の学士課程プログラムと教職課程の学びとの関連を総括し、自身の教職適性も含めた省察を行い、教職への積極的な態度をもち、実践に向かうことができるようにする。
	通年	「教育実習Ⅱ」の履修を通して、教師としての職務についての理解を深める。高校生を教育することに対する自覚を深め、自律的に指導法を改善することができるような各種能力を向上させ、高等学校1種(商業)を教えるにあたって必要となる関連知識を習得する。併せて「ゼミナールⅤ」「ゼミナールⅥ」での卒業論文作成を通して、学習したことがらを理解し、それらを整理し、適切なかたちにまとめることのできる力を磨く。